

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
図書館サービス・システム委員会主催
第1回横断検索検討会議議事録

日 時： 2006 年 7 月 26 日（水） 15 時～17 時

場 所： 金城学院大学図書館

参加業者：日立製作所、日本事務器、リコー、京セラ丸善システムインテグレーション

出席者：鈴木卓美（金城学院大学）、春日井正人（中京大学）、尾崎友子（名古屋女子大学）、石田信（南山大学）、小川真智子（愛知工業大学）

（敬称略）

記 録：小川真智子（愛知工業大学）

【協議事項】

1) NII 図書登録率の現状と横断検索の目的

上記について、鈴木委員長より説明が行われた。図書データの場合、自館での格納率が高いのに比べ、NII への図書の登録率は低い。そのため、相互協力の際等に利用する、NII の総合目録データベース（NACSIS Webcat）だけでは検索できない図書がある。横断検索が可能になれば検索対象の資料も増え、有効活用ができる。技術的にも、XML 対応であれば異なるシステム間でもデータの受け渡しが可能である。

2) 現在の横断検索の仕組みと XML 横断検索 API について

上記について丸善担当者より説明が行われた。現在、横断検索の仕組みは主に二種類ある。資料提供型では、NII や県立図書館等の中心的な機関の仕様に基づき横断検索を実装している。また、OPAC 解析型では、横断検索を行いたい他大学の OPAC の検索結果を解析し、横断検索を行っている。どちらも、仕様の変更に伴う実装の改修や解析業務、保守・維持費など工数やコストの面で問題がある。

そこで、通信の部分のみ共通仕様にすれば、工数が削減でき、相互検索の頻度分析等が可能であるため、費用対効果が高い。

3) その他

Amazon 等で無料公開されている WEB API の使用の提案がリコーよりあった。予算の関係上、9 月頃には開発費や工数などの案が必要であるため、参加業者には引き続き検討してもらうことになった。

以上